



鈴木一史センター長(右)と細田佳佐副センター長(左)



聖隷浜松病院
浜松市中央区
住吉・岡俊明病
院長^{II}では、4
月1日に「消化
器センター」を
設立した。
これまで同病

地域消化器医療の中核目指す

県内有数の症例数と科を越えた連携

院の消化器診療は、成人に対し
ては消化器内科と外科(上部消
化管外科・肝胆膵外科・大腸肛
門科)、小児に対しては小児科
と小児外科がそれぞれ診療を行
ってきた。小児から成人まで、
良性疾患から悪性疾患まで、幅
広い年代のさまざまな消化器疾
患に対応していたが、同センタ
ーでは消化器疾患に関わるこれ
らの診療科が一体となって連携
し、よりシームレスに、より質
の高い医療を行う事を目的とし
いづれの関連診療科を受診した
場合も「消化器センター」とし
て、診療科を越えて、最適で質
の高い医療を安心・安全に提供
する事を目指している。

身体にやさしい治療の提供を

鈴木一史センター長（副院長・外科部長）は「これまで内視鏡検査のハードルが高かった小



鏡視下手術の様子

児科でも専門医が在籍し、内視鏡検査や治療に携わっている全国的にも数少ない施設です。各診療科のエキスパートによる先進的な技術や設備を生かし、小児から成人まで、切れ目のない診療を継続できるのも当センターの強みです」と話す。

細田佳佐副センター長（消化器内科部長）は「静岡県でも有数の症例数（2023年度の内視鏡検査数【上部・下部内視鏡数】は7243件、消化管における内視鏡的粘膜下層切開剥離術【ESD】は191件）を誇ります。臓器・領域を横断的に協力して診療を行い、診断から治療まで、患者さんに最適な医

療を検討・提供し、身体にやさしい治療として、早期がんに対しては消化器内科でのESDの実施、外科でも多くの領域で低侵襲治療を標準術式とし、食道がん、胃がん、大腸がんでは、ほとんどの手術をロボット支援下手術を含めた鏡視下手術で行っています」と話した。

センターの開設により、消化器系疾患早期発見・治療に向けた予防啓発効果も期待される。

8月3日（土）には市民公開講座「みんなで健康ゼミ」を開催。消化器疾患について医師が講演する。オンラインでも視聴



可能で8月11日（日）まで見逃し配信もある。視聴は上記QRコードまで。